

元魔法少女の 仕事話青





二〇〇〇年
この世界に突如に現れた
「魔法少女」という特殊個体

彼女達は人智より遥かに
超えた高次元な力を持ち

人類の代わりに怪獣や
超自然災害と戦い続けた

魔法少女達が身を張って
強力な敵と戦う姿は
ネットで中継され

まだ子供だった私は
その強くて美しい姿が
目に焼きついた

憧れが日に日に
強くなつて

いつか私も
魔法少女になれたら
いいなと思った

あおはらのぞむ
青原望夢



そして
奇跡が起こった



魔法少女の適応年齢
になった私の目の前に
魔法妖精が現れた

ずっと願ってきた
チャンスが目の前
に現れ



本当に
嬉しかった

考えずに
魔法妖精と契約をして



夢が叶ったのように
私は憧れの魔法少女
になった



けど、現実の残酷さで
この夢から醒めたのも
そう長くはなかった…

魔法少女になった私は
魔法少女になる才能を
持ち合わせていなかった

史上最弱な魔法少女
と言ってもいいほど

クッソー!!

無傷じゃん…
なんて硬さだよ!

かなり強い相手だ
複腕による連続攻撃に
気をつけて!





だったら...

当たらなければいい
攻撃を全て避けられ
いいだろう！

何回も何回も...

いくら
努力しても...

切り
刻むまで！

私の力は
全く...

ぐう！！

ブッ
ギャン





絶対的な力を
目の当たりにすると



可愛い後輩ちゃんに
何かあったらいやだもん

自分の弱さが
惨めになる

同じ魔法少女なのに
どう足掻いても縮まらない
この力の差



十年後の世界に
平和が戻ってきて

怪獣も魔獣も
超自然災害も
全て消されて

世界はもう
魔法少女を必要
としなかった

一階フロアが
突破された！

バカなっ！

バリアは作動中
じゃねーか？
まさか特別部隊が？

無線の
連絡から…

政府の牝犬だ！

クッソ！
早く！
銃を出せ！！

人類は争うことを
やめられない

外部からの脅威が
消えたとしても…

政府の
牝犬だっ！

撃てっ!!

かつての「魔法少女」は、兵器として使われる選択しか残されていない

最弱な魔法少女
でも：

まあ…私は優しいし
寛容な方なんで…

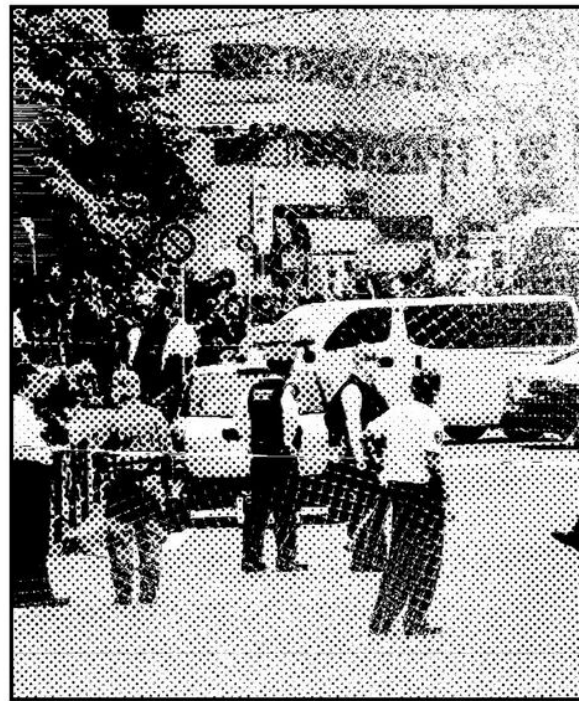
銃を持つ一般人を潰すのは、アリの踏み殺すより簡単だ

私を侮辱した罪は
その腕一本で
許してあげるわ

あああああ
あああああ
あああああ!!

よく言うわね
犬より格下の
ゴミクズどもめ！

Three men in suits are shown in a state of extreme fear and panic. They are cowering on the ground, huddled together. The man on the left is clutching his chest, the middle man has his mouth wide open in a scream, and the man on the right is also screaming with his arms outstretched. Their faces are contorted with terror, and there are sweat drops or tears around their eyes. The background is dark and indistinct, focusing attention on their reactions.



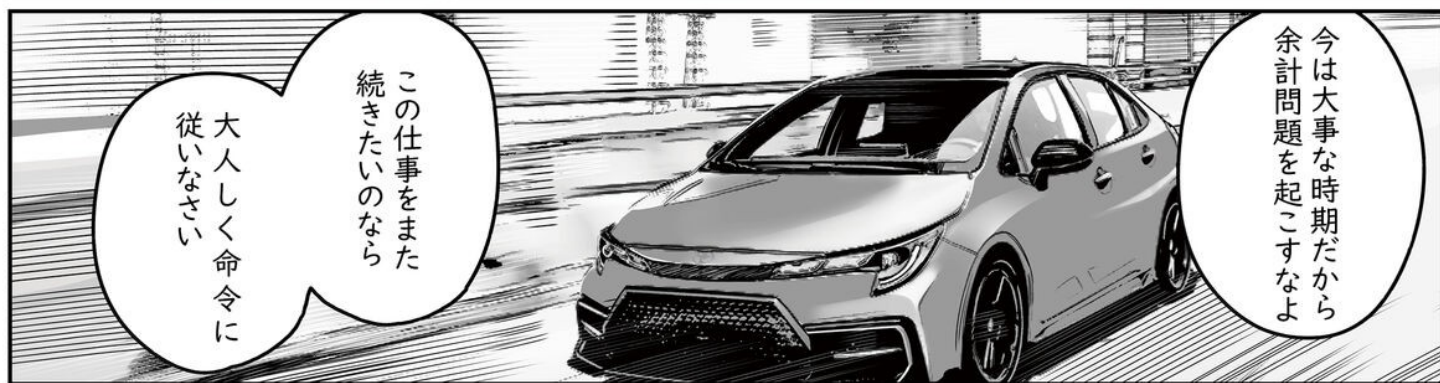


君の行動は医療部門
にも大きな負担をかけて
しまうし

ちえっ！

ただでさえ魔法少女を
政府の傘下につくことで
反対の声が止まないの
によお

魔法少女を雇って
くれるところはそう
多くはないだろう



今は大事な時期だから
余計問題を起こすなよ

この仕事をまた
続けたいのなら

大人しく命令に
従いなさい



わーったよ…

先輩は魔法少女
辞めるのですか？

尊敬できる先輩も…

平和な時代に魔法少女
はもういないよ…

それに…
この年で魔法少女の
格好をするのは

正直…
恥ずかしすぎる…



一緒に戦ってきた仲間も…



一人一人…
離れていく…

沈みかけの夢を
握りしめる私を残して…



魔法少女の力が必要です
一緒にやってみませんか？

そんな私の前に
彼が現れた！





「魔法少女」は少女である前提で、成人までの少女に限って、体に負担をかけずに能力を行使することができる

魔法少女の力の根源は「純粋さ」

心身の成長につれ、人間の考え方は複雑になり、その「純粋さ」はいずれ「欲望」に変わってしまう

従って、魔法少女の契約は成人までとする
引き続きの使用はお勧めできない

成人後の魔法少女がその力を行使することに、「欲望」の増幅という副作用が発生する

潜在的な欲望はみんな違うので、どんな欲望が増幅されるのかは人によって違う

ただし、「欲望」の増幅を無視してしまうと精神にダメージを与え、廃人になる可能性があり得る

危なさそうに聞こえるけど
まあ…火を使うのと同じだ

適度に欲望を満たしてあげれば
安全に能力を行使するのは可能

欲望を適宜に満たせば大丈夫
とのことですか？

そもそも青原さんの欲望はなんですか？

望夢ちゃんの欲望はめずらしくない、青春
期からよくあるの…







仕事だからといって
こんなことするのは…

あんまり良く
ないけど…



今更こんなこと言って
も、どうにもならない
だろう

ざあッ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ



性欲の処理を任せろっつ
つたのもそっちだろう！

ぞく

ぞく



ねえっ！
止まらないで
くれる？

オッ

ん…

んあ

ぶるん

セックスする時は
集中しなさいよ

ぐわっ

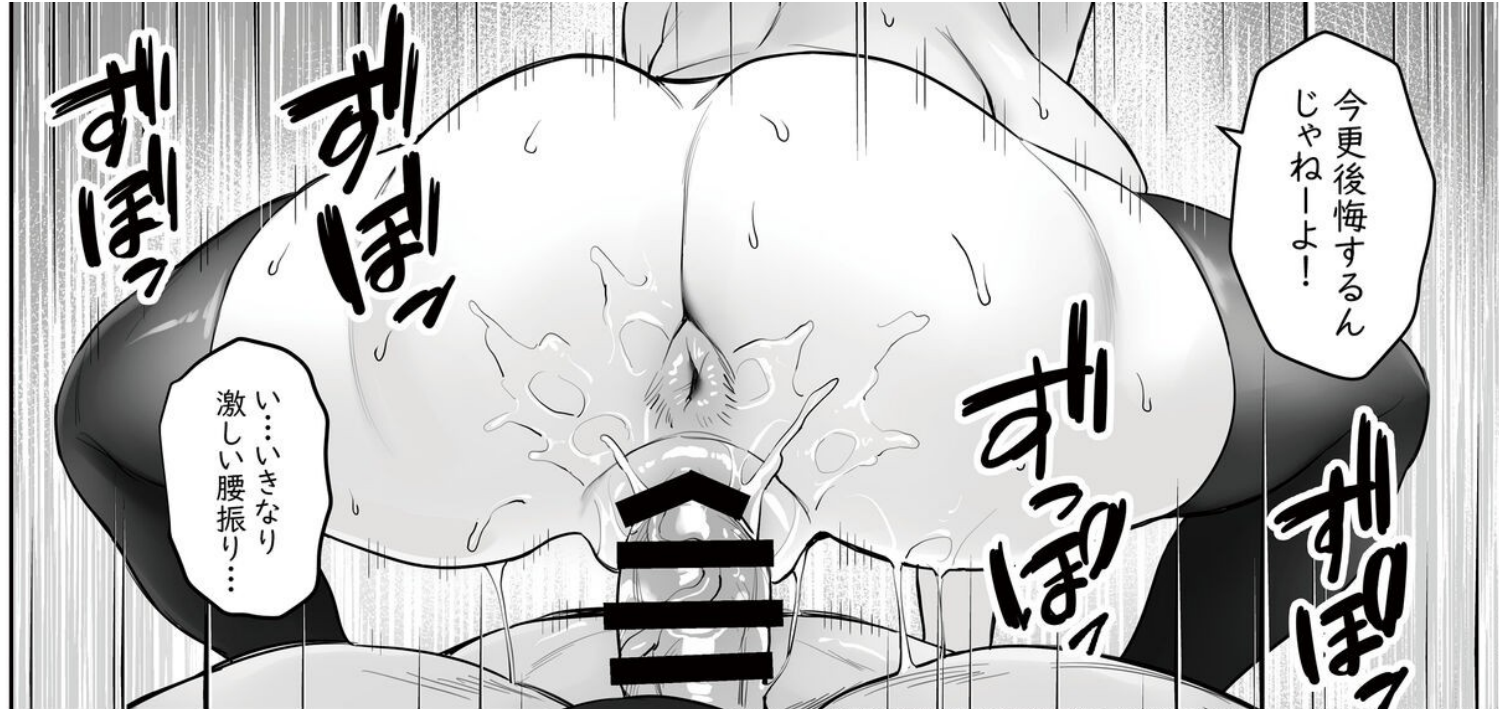
ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

びく

びく

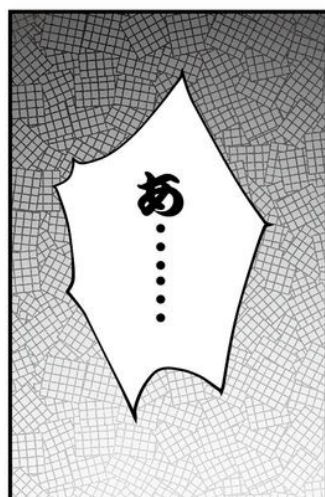
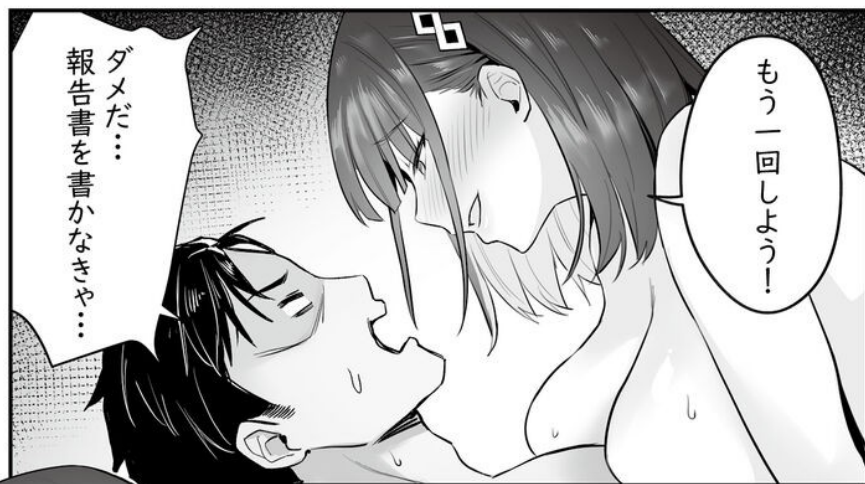


ダメ！
イっちゃろ！
はああああ

射るっ！！

熱い精液が
入ってきた！

ほっ♡





与えられた快感へ
溺れ沈む昼夜…

おまんこが
いっぱい…

たくさん出したね
掃除してあげるよ

ふーっ

はーっ

ぐわっ

仕事か否かはもう
気にしていない

けだよー望夢は
本当にタイプなのよな...

えっへん

このままじゃ
ダメだ...

ちゃんと
話そう...

おっばいマジ
でっかいし...

ああ…
俺はいつたいつ！

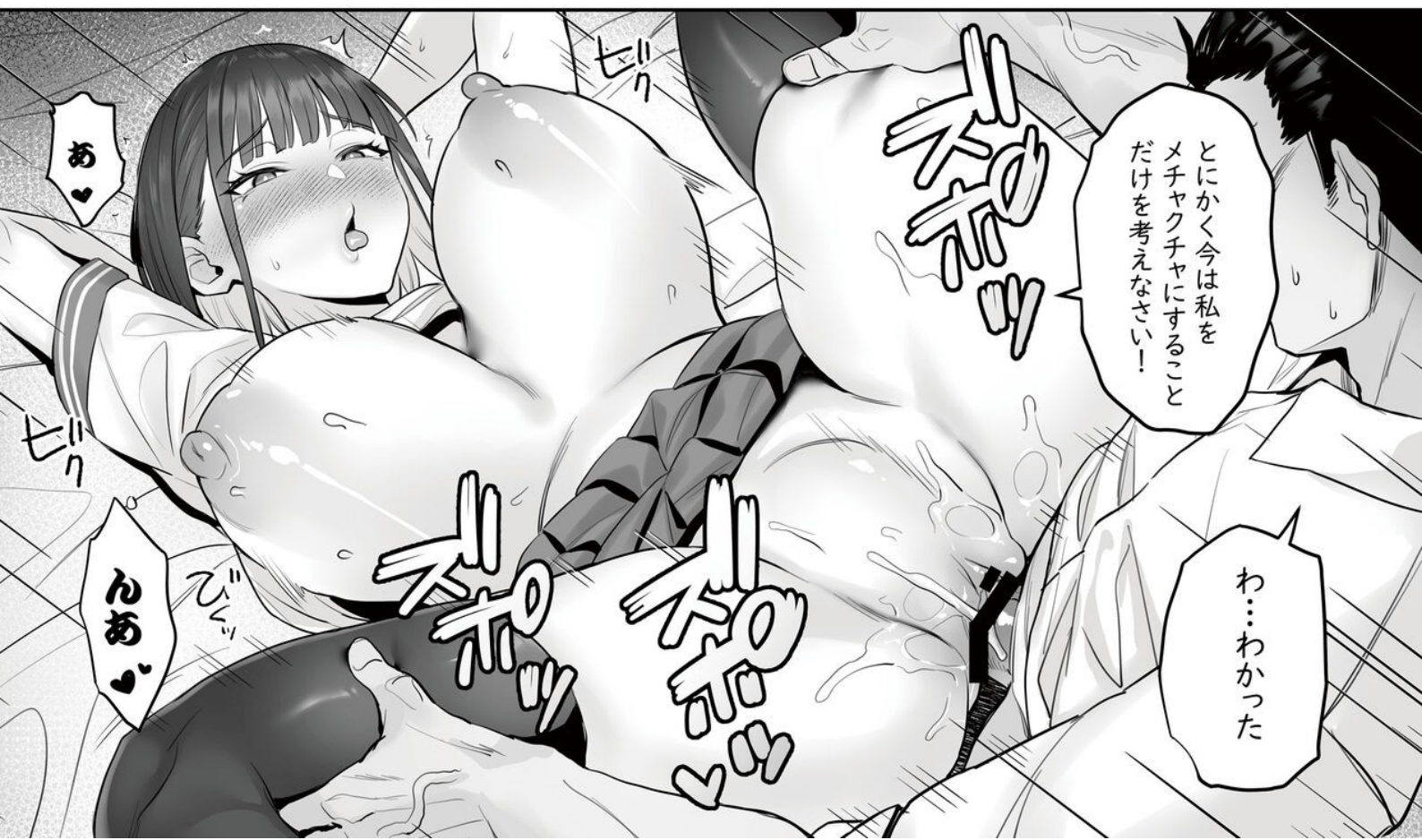
毎日同僚とセックス三昧は
さすがにやばすぎだろう！

バレたら
終われた…

ああ…
俺はいつたいつ！

毎日同僚とセックス三昧は
さすがにやばすぎだろう！







イクイクイクイク
イクイクイクああ

イっちゃう

んがッ

ブル

ブル

ブル

ブル

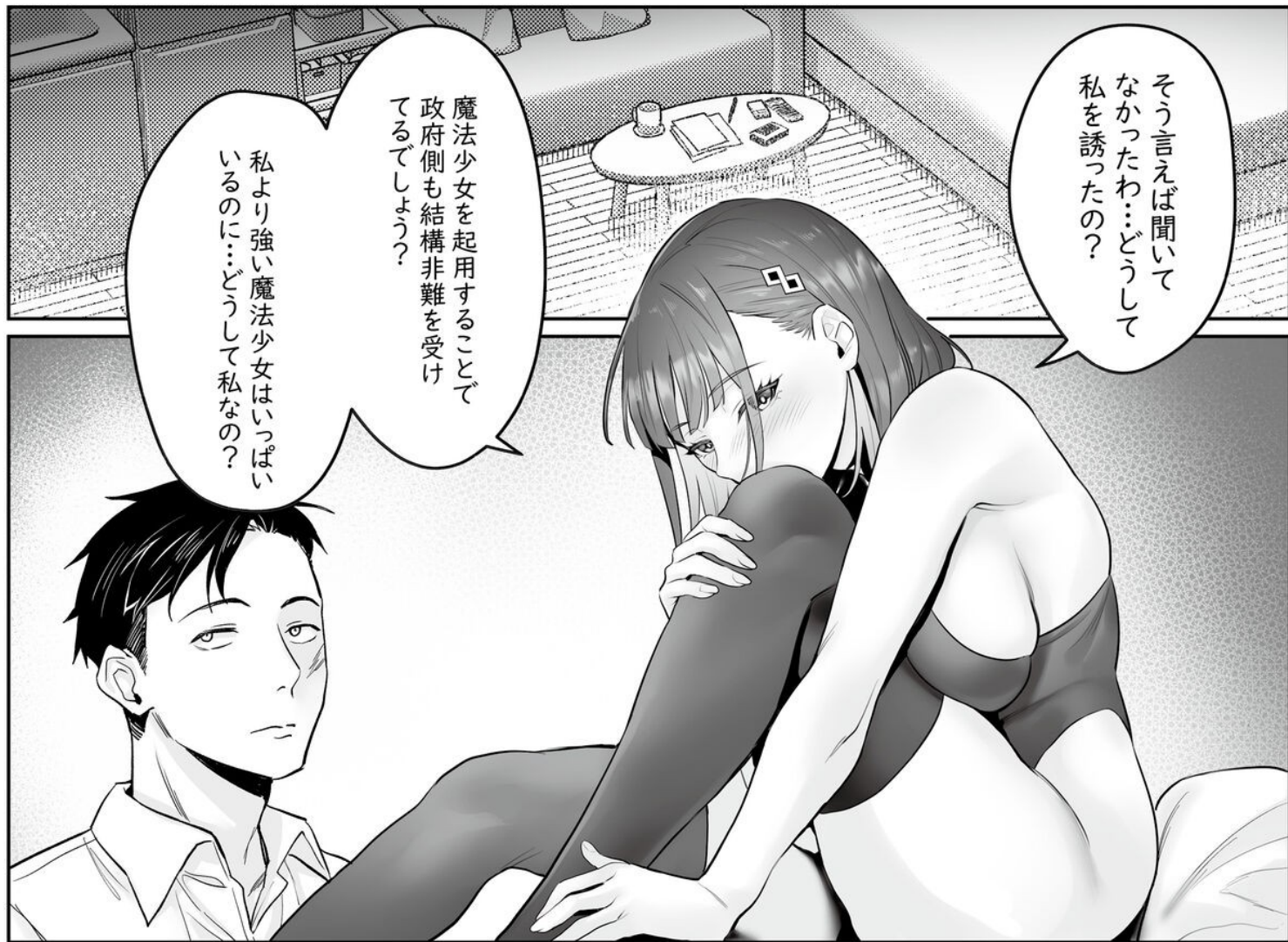
ブル

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ



そう言えば聞いて
なかったわ…どうして
私を誘ったの？

魔法少女を起用することで
政府側も結構非難を受け
てるでしょう？

私より強い魔法少女はいっぱい
いるのに…どうして私なの？

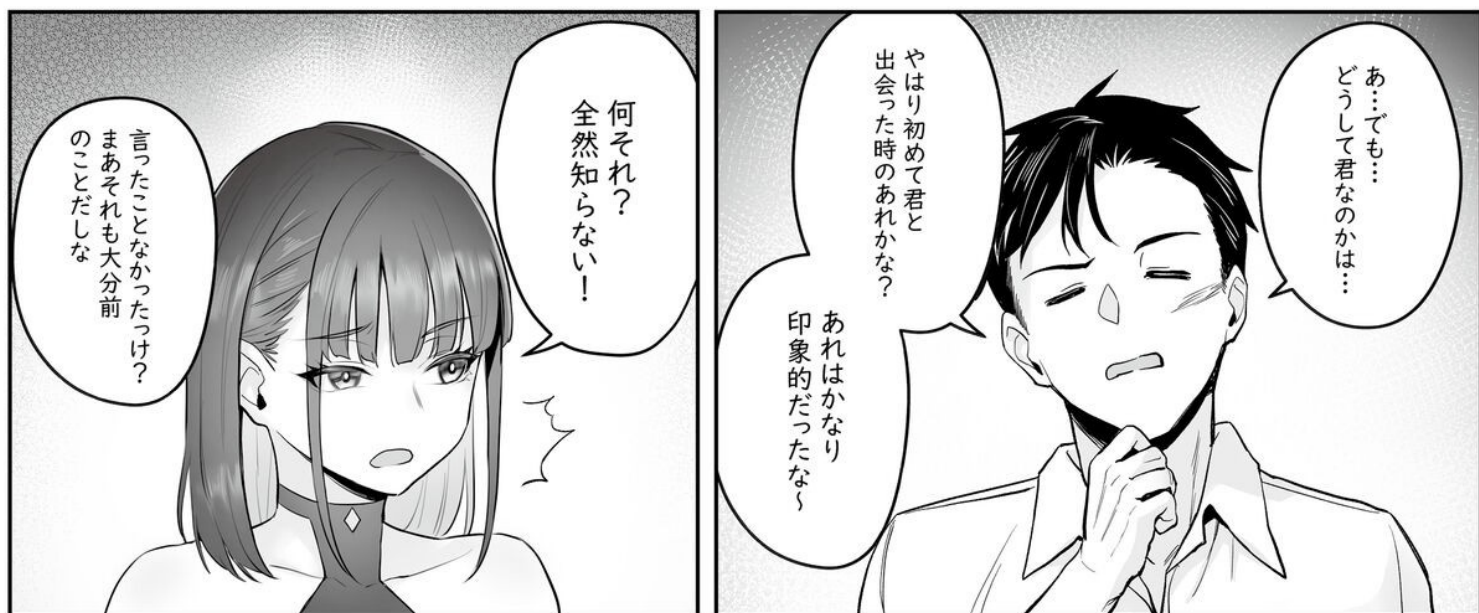


怪物が消えた後でも
魔法少女はまた生きてる

その能力を生かさ
ないと勿体無いだ
ろう

それに、君が入隊してから
うちの隊員の損傷率が
大幅に減ってきたし、

報告書の一枚二枚は
なんもないさ！



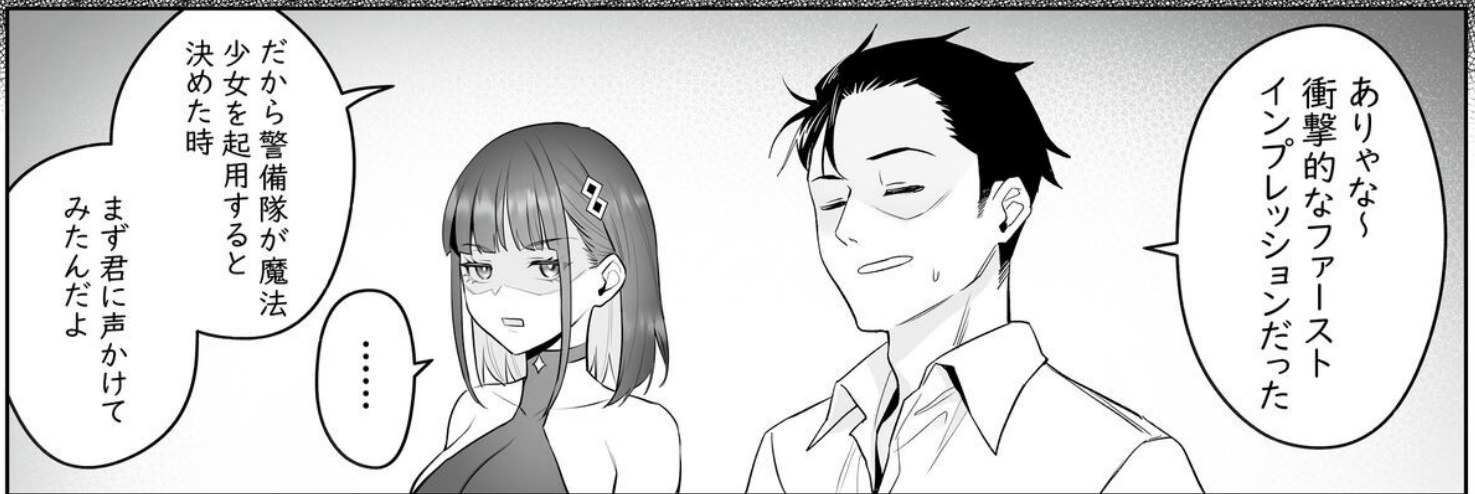
あ…でも…
どうして君なのかは…

やはり初めて君と
出会った時のあれかな？

あれはかなり
印象的だったな

何それ？
全然知らない！

言ったことなかったっけ？
まあそれも大分前
のことだしな



最初の頃



十年後





ファビー

高次元から来た魔法の生物

見た目はかなり怪しいマスコット、少女たちを勧誘し魔法少女になる契約を結ばせ。魔法少女になったら18才までは契約の強制力で人類の脅威と戦うことを義務付けられる。他の魔法妖精と違い、魔法少女に気づかいができる性格。

魔法少女服

青原望夢

元魔法少女、幼い頃から魔法少女になる夢を抱いてた。彼女は幸運にも魔法少女になれたものの、才能の限界により最弱の魔法少女となってしまった。

それでも、成人後も魔法少女になることに強い執着を持ち続けた。魔法少女の力を活用するために、政府の特殊警備隊に参加することを選んだ。学生時代から性欲が旺盛で、普段はオナニーで欲望を解決していた。

武田隊長に好意を抱き、副作用を口実にしてよく誘惑している。



※衣装は自由にボディースーツとセーラー服に変えられる

セーラー服



ボディースーツ



武田直人

警備隊隊長

まじめな性格で、普通の公務員

特殊部隊に勤務していた経験があり、部下から深く信頼されている

魔法少女を警備隊に募ることを提案した人

まじめな性格と正反対に、実は巨乳セーラー服が好き

それは秘密よして、誰にも気づかないように隠している



早瀬愛理

前作《元魔法少女の引きこもり生活》のヒロイン

最強の元魔法少女、非常に優れた才能を持っている

望夢が憧れている先輩

◆後書き

皆さんこんにちは、珍緑です

本作は《元魔法少女の引きこもり生活》の続編です

オリジナル作品2作目、皆様はどう思いますでしょうか？

元々「元魔法少女」テーマのシリーズ作として

同じ世界観にいるそれぞれのヒロインの話探索したいと思います

前作のヒロインは「最強の魔法少女」の設定は単なる飾り立てのアイデアに過ぎないが

本作発想のきっかけになりました——最強の反対面は最弱じゃないか？

そしたら最弱魔法少女の物語を描こう！

この経緯で本作品ができました。

この流れで創作の過程が楽し区になりました

次回作にも同じ方向性に考えようと思います

最後に、ここまで読んでありがとうございます

これからもよろしくお願いします！

作者

珍緑

発行

COMEX @afong_cp

発行日

2024年9月

協力

瑞氏

Plurk

peter781226

X

@peter781226

Pixiv

410812

Fanbox





Original comic book
Presented by 珍綠